

教育委員会だより

私たちの大切な宝である子どもたちが、夢や希望を持ち、持続可能な社会の創り手となるよう、教育委員会や各学校はさまざまな取り組みを行っています。

その「今」を紹介します。

SDGsが目指す社会とこれからのESD

●ESDとSDGsの関係とは

教育委員会と各学校は、世界遺産、環境、福祉、まちづくりなど、地域の特徴を生かして、ESD(持続可能な開発のための教育)を進めています。

第12号で紹介したように、教育は、国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)の目標4(質の高い教育をみんなに)に位置付けられています。そして、ESDは、持続可能な社会の担



図1：目標4（教育）はSDGsの全ての目標達成に貢献

い手づくりを通して、SDGsの17全ての目標の達成に貢献するものです(図1)。

つまり、ESDを一層進めることがSDGsの達成に直接・間接につながっており、SDGsが目指す社会の担い手を育成することにつながるといえます。

●子どもたちもSDGsの理解促進のために活躍

そのような中、「SDGsが目指す社会とこれからのESD」をテーマに「ユネスコスクール・ESD全国実践交流会」を8月22日に開催しました。北は宮城県気仙沼市から南は沖縄県竹富町までの、300人を超えるESD関係者が大牟田に集い、学び合い、交流しました。

吉野小学校の6年生も、SDGsについて楽しく知り、考えてもらおうと、「吉野小学校プレーパーク」を開

催し、自分たちで考えて手作りした「SDGsすごろく」や「SDGsあみだくじ」などのゲームを紹介しました。

参加した人々からは、「子どもたちによるSDGsゲーム紹介もすばらしかったし、実践交流会では学ぶことがたくさんあり、とても有意義な時間を過ごすことができました。」などの声が聞かれました。



日本ユネスコ国内委員会委員・及川幸彦さんによる基調講演「SDGsと教育～子どもたちと創る持続可能な社会、そして未来～」



吉野小学校6年生がSDGsの理解促進のために活躍

●駿馬小の児童が中国の先生に宮原坑をガイド

9月2日から13日まで、中国大同市第十八小学校の先生2人が研修のため大牟田を訪れました。3日には駿馬小学校6年生のボランティアガイドが世界文化遺産・宮原坑を先生たちにガイドしました。

今年度初の外国の人へのガイドで、少し緊張したようでしたが、まず中国語であいさつし、その後、ガイドをする中で次第に緊張もほぐれ、先生たちに中国について質問したり、教えてもらった中国語を練習しながら楽しく会話をすることができました。

子どもたちは、いつものガイドにも増して多くのことを学び、充実した時間を過ごせたようでした。



右から2人目が大同市の蘆 艶萍（ロ エンヘイ）先生、同3人目が李 曉娟（リ ギョウエン）先生

オールイングリッシュで英語に親しむ

「ジョイフル・イングリッシュタイム」

教育委員会の重点事業「大牟田英語ステップアップ推進事業」の一環として、楽しく英語を学ぶ「ジョイフル・イングリッシュタイム」を8月8日に文化会館で開催しました。

●英語への興味・関心と実践力の向上を目指して

この事業は、「英語を聞く・話す・読む・書く」を取り入れた「オールイングリッシュ」の活動を通して楽しく英語を学ぶことで、児童生徒の英語への興味・関心を高めるとともに、英語を使う実践力の向上を目指すものです。昨年度に続いて2回目の開催で、小学5・6年生58人、中学生25人が参加しました。

●英語でコミュニケーションする楽しさを実感

子どもたちは、ALT(外国語指導助手)など英語が母語の7人の先生の指導のもと、すべて英語のゲームやクイズに挑戦し、楽しみながら学びました。小学生講座では、行ってみたい外国などを英語で書いて「パスポート」を作り、英語で自己紹介しました。中学生講座では、「来て楽しい、住んで楽しい、夢の大牟田」をテーマに、グループでタイトルを決め、英語のプレゼン資料を作り発表しました。



中学生は夢の大牟田をプレゼン



小学生はパスポートで自己紹介

子どもたちは、英語でコミュニケーションする楽しさを実感でき、新しい友達もできたようでした。

国語、算数・数学の難問にチャレンジ！

「チャレンジスクール」

重点事業「大牟田学力ブラッシュアップ推進事業」の一環として、小中学生が国語、算数・数学の学習の成果を交流したり、新たな学習に挑戦する「チャレンジスクール」を8月7日に文化会館で開催しました。

●いつもの授業では経験しない問題にもチャレンジ

小学校5・6年生は午前に算数、午後に国語の講座を、中学生は午前に数学の講座を受講しました。

小学生43人、中学生36人が参加し、難しい応用問題や、日本の伝統的な言葉、また、鶴亀算(※)のような和算など、いつもの授業では経験しない問題にもチャレンジしました。

●わからないときは友達と話し合って解決

子どもたちは、わからないときは話し合っているいろいろな視点から考え、取り組みました。初めて会った他の学校の人も一緒に考え、答えを見つけたときは一緒に喜んで、自然に仲良くなっていました。

午前から午後まで通して受講した小学生も多くいて、「とても楽しかった。また来年も参加します。」「去年も来て楽しかったけど、今年も楽しかった。友達もできました。」「などと感想を話し、充実した一日を過ごせたようでした。



話し合って問題解決！



難問にチャレンジ中

(※) 鶴と亀の足の数のように2つ以上の異なる種類のものがあり、その総数だけがわかっている場合に、それぞれがいくつずつあるかを考える問題。

■問合せ 教育委員会事務局総務課
教育みらい創造室 ☎412867